

地区公園内の各エリアにおける 利用者属性の差異に関する考察

三友 奈々¹

¹正会員 日本大学助教 理工学部土木工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 3-11-2)

E-mail:mitomo.nana@nihon-u.ac.jp

本研究では地区公園において利用者行動を観察調査し、各エリアでの差異を分析することで、各エリアにおいて多様な利用に対応しながら、それぞれの利用者が居心地よく過ごすための地区公園のあり方について考察することを目的とする。

茅ヶ崎中央公園において利用者行動を観察調査し、各エリアにおける利用者人数や合計組数、1組あたりの平均構成人数について整理した。活動するために滞留しているのか、休憩するために滞留しているのかでは、単なる滞留でも異なることが改めて明らかとなった。また子供の遊びのような移動を伴う活動をしているのか、高齢者の人たちがゆっくり散歩しているのかといった利用者の属性を踏まえた活動内容を詳細に把握し、分析することの重要性が確認できた。

Key Words: *Time-Spending, Urban Park, Thid Place, Placemaking,*

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

都市公園のうち地区公園は、主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で1箇所当たり面積4haを標準として配置され、街区公園、近隣公園とともに住区基幹公園として位置づけられている¹⁾。国土交通省の都市公園利用実態調査は、全国の都市公園における利用者数調査及びアンケート調査を行い、過去の同様の調査と比較し、今日の公園の整備や維持管理のあり方を検討するための比較資料である²⁾。その中で地区公園は、街区公園46.8%や地区公園51.7%と比較して、大人(19歳から64歳)の平日の利用者が59.4%と多い。また活動内容を見ても「子供を遊ばせた」比率が街区公園34.3%、近隣公園26.6%とそれぞれもっとも高いのに対し、地区公園は19.6%に留まる。一方、「散歩をした」比率は、街区公園17.3%や地区公園25.6%と比較して地区公園は32.7%と多く、比較的一つのエリアに滞留する活動だけでなく園内を移動する活動も行われていると言える。本研究では地区公園において利用者行動を観察調査し、各エリアでの差異を分析することで、各エリアにおいて多様な利用に対応しながら、それぞれ

の利用者が居心地よく過ごすための地区公園のあり方について考察することを目的とする。

(2) 研究の位置付け

公園における利用者行動の研究として、アンケート調査を用いた研究が多数なされている。田中等は市街地状況の違いと公園利用行動からみた公園に対する評価特性に関する研究として、福岡県内の3地区でアンケート調査を行い、人々の公園に対する満足感の向上のためには多様なオープンスペースなどの周辺環境要素が確保されるとともに、それらが人々から「お気に入りの場所」として認識され、立ち寄られることが重要な要件となることを推察している³⁾。また、大塚等は東京23区から規模の異なる6公園を対象に近隣住民に対してオンラインアンケート調査を実施し、利用行動に及ぼす要因として自然環境の多様性や遊歩道、特徴のある展示物、遊具などのハード設備が重要であることを示している⁴⁾。

茅ヶ崎市では2014年度に中央公園に関して市民を対象にアンケート調査とヒアリング調査を実施している⁵⁾。どちらの調査からもトイレの改善とベンチの増加を求める声が上がっていることが判明している。また平日利用としては、ほぼ毎日の利用として高齢者の運動・休憩、

近隣幼稚園の遊び・休憩，週 3 から 4 日の利用として，親子連れの遊び・休憩であり，休日は週 1 から月 2 回程度の利用が多く，家族連れでの遊び，市内クラブ等での遊び・運動の利用であることがわかっている。

これまでの公園の利用者行動に関する研究はアンケート調査によるものが主流であるが，本研究では茅ヶ崎中央公園において，利用者行動を観察調査し，各エリアでの差異を分析することで，地区公園のあり方について考察する。

2. 研究方法

(1) 調査の概要

茅ヶ崎市の景観計画にある過ごし方調査とは，「観察者が現地に赴き，人の行動をつぶさに観察した上で，公共施設の整備高架や公共施設等の設計にあたり配慮すべき事項を把握する調査」であり，これまで景観協議等を行った公園等を観察調査し，適宜計画に反映することとしている⁶⁾。調査の開始年度にあたる 2017 年度には中央公園（地区公園），しろやま公園（近隣公園），鉄砲道（市道 0121 線）の 3 箇所で行われた。本稿では，2017 年 10 月 27 日（水）と 11 月 12 日（日）に行われた中央公園における調査のうち，11 月 12 日（日）における調査結果を詳細に分析し，地区公園内の各エリアの利用者行動の差異について分析する。本稿で扱うデータの調査日時，表-1 の通りである。

表-1 本稿で扱うデータの調査日と時間

調査日	調査時間	天気	最高気温
2017 年 11 月 12 日（日）	11 時～15 時	晴れ	16.8℃

(2) 調査地の概要

神奈川県茅ヶ崎市では，2008 年度に景観重要公共施設として茅ヶ崎市立中央公園（以下，中央公園）を指定した。中央公園は約 4.0ha の地区公園であり，景観計画における中央公園の整備に関する事項では「公園の整備にあたっては，利用者が豊かなみどりを享受し，憩いとやすらぎの場として活用できるようにする」と明記されている⁶⁾。1984 年 4 月に供用開始されてから約 35 年が経過し，2016 年度からの基本設計を踏まえて，2018 年度には管理棟の工事が着手され，2022 年度頃には公園全体の再整備事業が終了する予定である。

中央公園が位置する茅ヶ崎駅北口周辺地区は，2001 年度に「特別景観まちづくり地区」に指定され，重点的に経過誘導を図る地区として位置付けられている（図-1）⁶⁾。

本研究では茅ヶ崎中央公園において，利用者行動を観察調査し，各エリアでの差異を分析することで，地区公園のあり方について考察する。

(3) 調査方法

事前調査の結果から中央公園を 6 エリアに分け，比較的多くの利用者が中央公園を訪れると考えられる 11 時から 15 時において，観察調査を行う（図-2）。エリアは県道 45 号線を挟んで市民文化会館の向かい側を「西

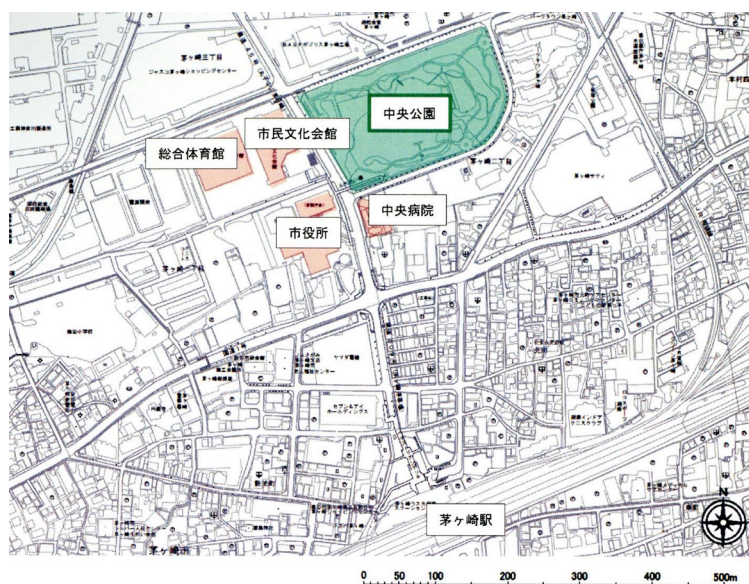


図-1 中央公園周辺主要施設位置図⁶⁾

側エリア」、中央の広場エリアを「西側広場エリア」と「東側広場エリア」に区分し、広場エリアの東側を「東側エリア」、公園の北側を「北側エリア」、市道を挟んで茅ヶ崎中央病院の向かい側を「南側エリア」とする。

各エリア 1 人から 2 人の調査者が、利用者の属性（性別、構成人数）、行動について目視で把握し、調査用紙に記録する。

エリア毎の利用者の人数であるため、複数のエリアを訪れた利用者はそれぞれのエリアで記録されるため、公園全体の利用者数は延べ人数となっている。

調査は各エリアにいる 11 時から 15 時の利用者について行う。11 時より前に利用する利用者のうち 11 時を跨いで利用する利用者と 15 時過ぎても利用する利用者も調査対象とする。調査者は、利用者行動に影響を与えない範囲で近づく等、必要に応じてエリア内を移動しながら観察する。構成人数は、滞留者が何人連れの歩行者であるかを示している。子供は、見た目や服装から中学生以下と思われる利用者として区分している。

3. 調査結果

(1) 中央公園における利用者数について

各エリアの利用者数の調査結果は表-2 の通りである。

調査時間帯に公園全体で 1992 人の利用者が確認できた。各エリアでそれぞれ調査を行っているため、利用者人数は延べ人数である。中央の広場の利用者等、実際には複数のエリアに跨って利用している利用者も多いと考えられる。そのため、公園全体の合計人数は実際の公園全体の合計人数とは一致しない。

男性と女性を比較するとやや男性が多かったものの、同程度となった。高齢者の人たちが運動や散歩をする姿も多く見受けられた。一方、休日の調査であったが子供は全体の 23% に留まり、多くが中央の広場で複数人で遊ぶ活動が多かった。

(2) 中央公園における組数と 1 組あたりの平均構成人数について

各エリアの利用者数の調査結果は表-3 の通りである。公園全体で 1127 組が確認できたが、(1) と同様に公園全体の合計組数は実際の公園全体の合計組数とは一致しない。

1 組あたりの平均構成人数は、中央広場が 2.5 人程度と比較的高くなった。一方、県道の歩道と接しており、通り抜ける利用者が多い西側は 1.5 人程度となり、1 人の単独利用者も多く見られた。

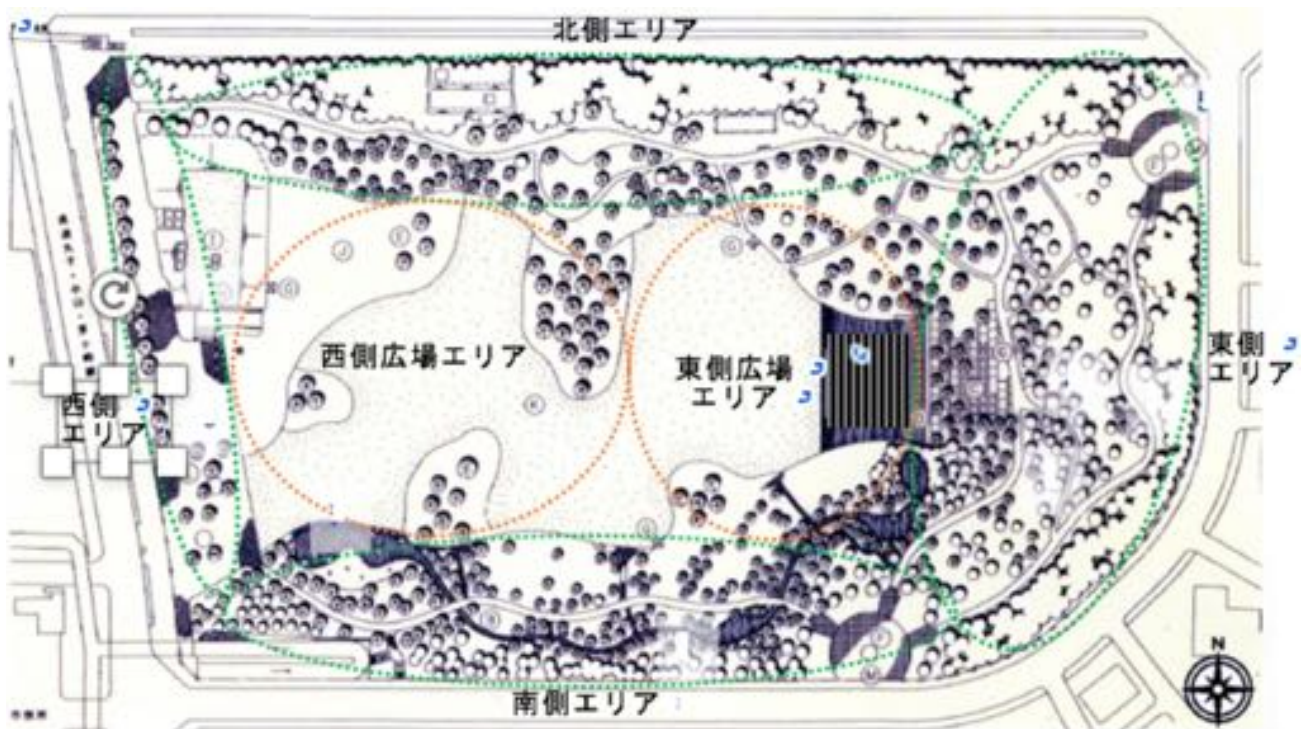


図-2 中央公園平面図⁶⁾における各エリア

表-2 各エリアにおける利用者数

単位：人

エリア名	男性利用者数	女性利用者数	男子利用者数	女子利用者数	合計
西側	454	427		63	944
西側広場	90	70	54	54	268
東側広場	49	56	38	60	203
東側	52	49	36	44	181
北側	42	43	19	21	125
南側	98	101	28	44	271
合計	785	746		461	1992

といった利用者の属性を踏まえた活動内容を詳細に把握し、分析することの重要性が確認できた。

表-3 各エリアにおける合計組数と

1組あたりの平均構成人数

エリア名	合計組数 (組)	1組あたりの 平均構成人数 (人)
西側	627	1.51
西側広場	106	2.53
東側広場	78	2.60
東側	88	2.06
北側	77	1.62
南側	151	1.79
合計	1127	1.77

4. 考察

中央公園において利用者行動を観察調査し、各エリアにおける利用者人数や合計組数、1組あたりの平均構成人数について整理した。その結果、茅ヶ崎駅につながる県道と面した西側エリアの利用者数が公園全体の半数近くになったが、西側利用者の92%が滞留せず移動するだけであるということがわかった。このエリアは舗装がされている箇所であり、直に座る利用者はなく、休憩するためにはベンチに座る利用者が多いが、その数は利用者と比較して少ないと言わざるを得ない。

また、中央の広場利用者は、芝生の上にピクニックシートを置いて滞留する様子も見られ、木陰で日差しを避ける位置や広場の端を好む傾向があった。

高齢者の人たちは、運動や散歩をする姿が多く見られたが、軽い運動をするために滞留する場合は、比較的人目につきづらい東側を好んでいるように見受けられた。

以上のように各エリアでの差異が見られた。活動するために滞留しているのか、休憩するために滞留しているのかでは、単なる滞留でも異なることが改めて明らかとなった。また子供の遊びのような移動を伴う活動をしているのか、高齢者の人たちがゆっくり散歩しているのか

5. 今後の課題

本稿では扱わなかったが、本調査では利用者の活動内容についても把握したことから、さらに詳細な分析を行い、各エリアにおける使われ方の差異について分析を進める必要がある。同内容の調査を2017年平日と2018年平日にも行ったことから、平日と休日の比較や1年後の変化について整理し、中央公園の利用者行動の実態をさらに分析し、地区公園の再整備のあり方について考察する必要がある。

また、地区公園では、街区公園や近隣公園と比較して遠方から集まるイベントが開催されていると考えられることから、イベント時における利用者行動についても把握する必要があると考える。

謝辞：茅ヶ崎市都市部景観みどり課をはじめとした関係者の皆様大変御世話になりました。現地調査は日本大学三友奈々研究室所属の学生の皆さんの協力を得ました。

参考文献

- 1) 社団法人日本公園緑地協会：平成29年度版公園緑地マニュアル，2017
- 2) 国土交通省都市局：平成26年度都市公園利用実態調査報告書，2015
- 3) 田中美穂，包清博之，杉本正美：市街地状況の違いと公園利用行動から見た公園に対する評価特性に関する基礎的研究，ランドスケープ研究，64(5)，pp655-658，日本造園学会，2001
- 4) 大塚芳嵩，那須守，高岡由紀子，金侑映，岩崎寛：都市公園における利用行動と健康関連 QOL の関係性，日本緑化工学会誌，40(1)，pp90-95，日本緑化工学会，2014
- 5) 神奈川県茅ヶ崎市：中央公園再整備計画，2015
- 6) 神奈川県茅ヶ崎市：茅ヶ崎市景観計画，2019

(2019.3.10 受付)